

事業の概要

国道17号は、東京と新潟を結ぶ重要な幹線道路であり、物流の大動脈として産業・経済の発展に寄与するとともに、地域間の交流促進及び沿線市町村との連携強化や、地域の生活を支える道路としても重要な役割を担っています。

平成16年新潟県中越地震で被災した国道17号和南津トンネルは、復旧工事で施工したトンネル支保工及び、内巻きコンクリートにより車道幅員が減少し、大型車同士のすれ違い際に急減速することにより、その後続車が追突してしまう事故や、大型車のコンテナ部分の覆工コンクリートへの接触による、トンネル壁面の損傷が発生しています。

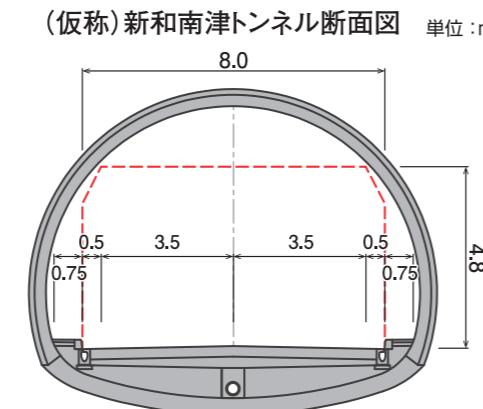
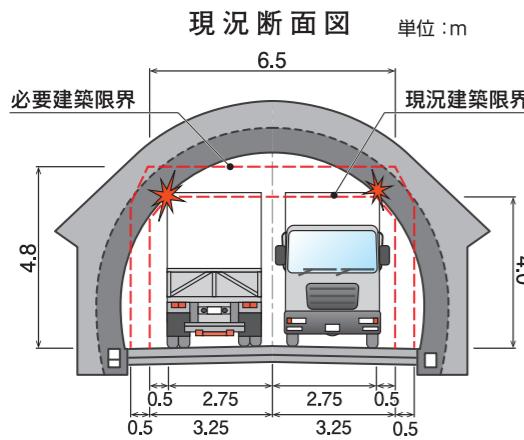
和南津改良は、新潟県中越地震からの復旧以降続いている「国際標準コンテナ車の通行支障区間の解消」と、大規模地震発生時にも広域的な輸送を支える主要幹線道路として「第一次緊急輸送道路の機能確保」を目的に恒久的な対策として実施する長岡市和南津地先における延長1.0kmの事業です。



国道17号 和南津トンネル（延長300m）

期待される効果

- 国際標準コンテナ車（高さ4.1m）の通行支障区間が解消します。
- トンネル内での大型車同士のすれ違い時の急減速に伴う追突事故や、トンネル内壁への接触による損傷が減少します。



事業経緯

年 度	主 な 経 緯
平成16年度	10月23日 17:56 新潟県中越地震発生により被災、19:00 全面通行止め 11月 2日 応急復旧完了（16:20 片側交互通行により1車線開放） 12月26日 本復旧完了（14:55 2車線開放）
平成21年度	事業化
平成23年度	用地着手
平成30年度	工事着手

お問い合わせ

国土交通省 北陸地方整備局
長岡国道事務所〒940-8512 新潟県長岡市中沢4丁目430-1
TEL.0258-36-4551(代) FAX.0258-33-7566
<https://www.hrr.mlit.go.jp/chokoku/>

一般国道17号
わ な づ
和南津改良



国土交通省 北陸地方整備局
長岡国道事務所

～ふる里のぬくもり伝える道づくり～

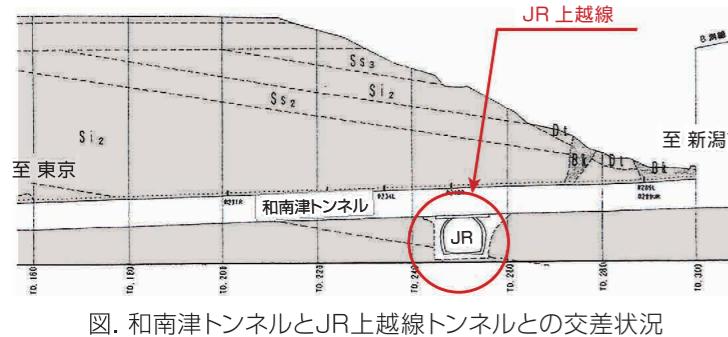


新潟県中越地震での被災から応急復旧・本復旧の概要

平成16年10月23日 17:56 新潟県中越地震発生、19:00 被災により全面通行止め

国道17号和南津トンネルでは新潟側坑口から約120mの区間において、トンネルアーチ部分の覆工コンクリートの剥落、トンネル壁面の内側への押し出しや、坑口付近でも被害を受けました。

直下にはJR上越線のトンネルが交差していることから、学識経験者や専門家等からなる「和南津トンネル技術検討委員会」からの助言を得て復旧工事にとりかかりました。



応急復旧

- ~10月26日 崩落コンクリート撤去
- 10月29日 24時間体制で応急復旧工事開始
- 11月 2日 応急復旧完了
(16:20 片側交互通行により1車線開放)

和南津トンネル周辺には迂回路がなく、応急復旧が急務であったため、多い日には180人の作業員が現場に入り、鋼製支保工の設置及びコンクリート吹付を行い、1車線の通行を確保しました。

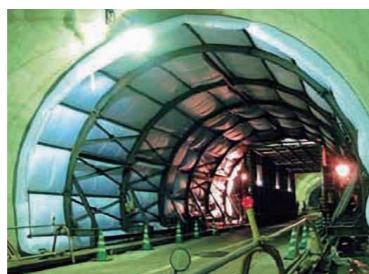


本復旧

- 11月27日 プロテクター設置開始
- 12月26日 14:55 本復旧完了(2車線開放)

本復旧は余震が続く中、落下物等から通行車両を防護するため、車両防護用プロテクターを設置し、一般車両の交通を確保しながら作業を行いました。

外で組み立て型枠をトンネル内に移動して覆工コンクリートを打設し、その後、坑門や擁壁のクラック補修を経て、2車線(幅員8m)の通行を確保しました。



夜を徹したプロテクター製作の様子

コンクリート養生期間を短縮するバルーン工法

断面不足状況
(東京側内巻きコンクリート端部)